

患者の生活を見据えた看護をめざして 在宅療養推進に向けての連携強化

独立行政法人国立病院機構浜田医療センター

地域医療連携係長 久代 玲子

看護部長 矢野 糸枝



訪問看護実習の実施

当院は、2014年度に回復期リハビリテーション、地域包括ケア病棟を開設しました。開設後、慢性期にある患者の退院後の生活を見据えた看護が十分でない状況でした。患者の生活を見据えた看護を実施しようと度々発せられるのですが、実際の看護現場で具体的に何をするかを説明できない状況にありました。

病院長から「訪問看護の実習に行こう。」と提案があり、島根県看護協会訪問看護ステーションそよかぜの丘で、看護師長11名が2日間ずつ実習をしました。看護師長が訪問看護を体験することで次のことを期待しました。①病棟看護師に対する在宅移行への意識づけの強化。②地域の多職種との連携強化。③その結果、患者・家族にシームレスな医療・介護を提供できる。実習では丁寧な指導と日頃の看護に対し率直な意見を頂きました。浜田医療センターを退院して、訪問看護ステーションを利用される時、情報提供内容に不足が多く、在宅での看護に役立たない状況にあることが理解できました。

実習後に看護師長会で学習結果から何をすべきかを考えるために検討会を実施しました。そこでは、①病棟からの情報提供内容は一方的で活用できない。②生活の場が様々であり、入院時から個々の生活を見据えやがては在宅に帰られることを意識した具体性のある看護が必要である。③訪問看護師等地域の多職種と顔の見える関係の重要性を感じた。等の声が上がりました。

患者の生活を見据えた看護実践のための訪問看護ステーションとの話し合い

訪問看護実習結果を受けて、まず、地域の訪問看護ステーションとの話し合いの機会を持つことになりました。浜田医療センター・訪問看護ステーション連絡会運営規程を作成し、運用を開始します。第1回は、平成29年1月24日の予定です。率直な意見をいただき、日々の看護を改善していきたいと考えています。また、管理職の訪問看護実習を継続させ、「患者の生活を見据えた看護」に対して改善結果が見えると評価いただけるように取り組みたいと考えています。

在宅療養推進に向けての連携強化に繋がる地域医療従事者研修会の報告

当院は、地域医療支援病院として「地域医療従事者研

修会」を概ね毎月1回開催しています。12月8日(木)に第8回目として、院内・院外合同で事例検討会を実施しました。1事例をもとに、入院病棟・地域医療連携室・ケアマネージャー・訪問看護師が各々の立場から関わりの報告をしてシンポジウム形式で開催し、参加者は49名でした。アンケート結果より、「各々の立場や役割を理解する機会となった」「入院から在宅への連携の流れを理解できた」「入院2日目から連携室が関わり退院支援が行なわれていることを知った、早い対応で良いと思う」等の意見がありました。在宅療養推進に向けての連携強化には、お互いの立場を理解し合うことは大切であり、また、事例を振り返ることで患者様の安心・安全な療養生活に繋がるよう、今後もこのような研修会を企画していきたいと考えています。

